

八郎湖流域管理研究 第2号の発刊にあたって

このたび、皆様に八郎湖流域管理研究第2号をお届けできることにまずもって感謝申し上げますとともに、この機会にこの機関誌の「刊行の目的」や「内容」に言及させて頂く。

まず「刊行の目的」は、次の2点にある。第1は、「地域住民、行政・NPO関係者、研究者が、八郎湖流域の現状や問題点に関する正確な認識を共有する」ことに貢献すること、第2は、「八郎湖およびその流域全体を一体として捉える共通の視点を育て、八郎湖の水質改善と地域の活性化・持続的発展をめざして協働する」ことに役立つことである。要するに、八郎湖流域の正確な認識共有と共通視点の育成への貢献が主旨であり、そのために本誌が必要な情報の発信と共有の場になっていって欲しい、これが私たちの願いである。

そのために取り扱う「内容」は、次の2点になる。第1は、八郎湖の水質や水質改善対策のほか、流域内の自然、気象、生物、土地利用、産業、人間活動、社会システムなど八郎湖の水質改善・再生や地域の活性化に役立つと思われる情報や研究成果に関する論文・資料であり、第2は、他地域の情報や研究成果であっても、その情報等を共有・活用することにより八郎湖の水質改善や地域の活性化が図られると期待できるものである。要するに、先の目的に適うものであればできるだけ広く取り扱っていかうという主旨である。

その内容・分野は、「流域と流域管理の考え方と手法」、「八郎湖の立地環境、生物・自然環境の変化」、「八郎湖への流入負荷量の把握とその削減対策」、「八郎湖およびその周辺の水質改善対策」、さらには「地域住民、行政・NPO関係者、研究者の協働による情報の共有と啓発活動の推進」、「流域イニシアティブによる地域資源の循環利用と地域特性を生かした産業の育成・活性化」まで、あえて「風呂敷」を広げている。

昨年度の第1号は、「八郎湖の水質改善と地域資源の循環利用をめざした新たな取り組み」と題してシンポジウムを開催し、その記録を収録し、合わせて6分野に及ぶ「八郎湖流域に関する研究レビュー」を収録した。

今年度の第2号は、「八郎湖の過去・現在・未来—八郎湖の水質改善と流域の持続的な発展をめざして—」と題して7本の論文を収録した。「八郎湖の流域管理を考える」、「八郎湖に流入する汚濁負荷量」、「八郎湖および周辺水域の水草フロラとその変遷」、「印旛沼・手賀沼における沈水植物再生の取り組みと課題」、「八郎湖の干拓にともなう魚類相の変遷」、「八郎湖流域住民の意識と八郎湖再生の方向」、「八郎湖に係る湖沼水質保全計画（第1期）の成果と今後の展望」がそれで、いずれも八郎湖流域の来し方行く末に深く思いを致した論文である。寄稿に心より感謝申し上げたい。関係の皆様には、格段のご理解とご協力を、切にお願い申し上げます。

秋田県立大学生物資源科学部長

佐藤 了